

卒業論文一覧（令和3年度）

—令和3年12月20日現在の卒論提出者ならびに
提出予定者—

麻生良文研究会

川添真梨子 再生可能エネルギー導入に伴うコスト面での障壁
柳 俊介 年金財政結果レポートの検証

大串敦研究会

石田 桃子 現代ロシア映画に見るソビエト・ノスタルジア
角野 優香 西欧旅行後のニコライ・カラムジン文学における目的
園田 健斗 ロシアにおけるユダヤ人排斥運動と日本における華僑排斥運動の比較
研究から、外国人排斥運動が起きる理由を考察する
竹西 怜 巨大保守政党成立の要因—統一ロシアと自由民主党（日本）の比較—
坪井 恵莉 米露、中露間の協調関係を中心に考える北極地域政治
富田 紗永 芸術文化と政治社会—ゴールスキー版・プルメイステル版『白鳥の湖』
とロシア社会—
伴 大河 ドイツとの比較から考える現代ロシアの政教関係の実態
久木あゆみ 外国人嫌悪の日露比較
森 啓輔 タトリンとマレーヴィチからみる、ロシア・アヴァンギャルド美術が
独自性を獲得した時期とその背景

大久保健晴研究会

阿部 倫人 戦時下における日米自由主義ジャーナリストの比較—石橋湛山、ウォ
ルター・リップマンの外交論とメディア論—
石塚 柚奈 戦争裁判・朝鮮人 BC 級戦犯—朝鮮人 BC 級戦犯を生んだ日本精神の
構造に迫る—
岡橋 行幸 梁啓超と孫文の思想から紐解く中国のネーション観
川島あさひ 近代台湾における対日認識の形成と変容
木村 麻李 「同化」と「異化」の狭間に生きる在日韓国・朝鮮人—彼らのアイデ
ンティティとは—
小林 義生 台湾の民主化とキリスト教
小森ありさ 琉球処分から紐解く日本のアジア観—日本とアジアの真の協調に向け
て—
酒井綜一郎 「台湾のナショナル・アイデンティティ」—台湾化と現代における台
湾民衆の自己認識—
嶋津 裕人 光州事件が現代韓国の「抵抗」の民主主義に与えた影響
白澤 慶悟 宮崎滔天の民権主義的アジア主義—頭山満の国権主義的アジア主義思
想との比較から—

- 末吉 麻衣 沖縄返還の再検討 (沖縄返還にみる日韓関係と基地問題)
- 菅原 千尋 「坂の上の雲」のメディアとしての信頼性
- 住吉真理乃 日本の同性婚をめぐる変遷と課題
- 田井 里采 韓国におけるプロテスタントの受容と拡大—“儒教の国”韓国で何故プロテスタントが広まったのか—
- 田代 麻純 社会における「弔い」と「遺された人々」—東日本大震災から見る、生者と死者の関係—
- ドストレージェームス 中国のアフリカ投資 アフリカの歴史と現在から検討する援助の理想像
- 中村 朱里 中国国歌「義勇軍行進曲」に見る20世紀初頭の日中関係—現在の国歌制定に至った背景—
- 樋口 実穂 植民地国家フィリピンの外交政策の変遷
- 星 ひとみ 香港における民主化運動の変遷—『一国二制度』と民主主義—
- 保野永久子 明治期の文明の形勢とその意義
- 松田 遼子 日韓関係における歴史認識問題が解決されない真相—慰安婦問題からみた歴史認識問題の再考—
- 松本里緒菜 竹島問題はなぜ解決しないのか
- 三浦 展稔 天皇と権威 大正天皇が現代天皇観に与えた影響
- 山口 鈴加 韓国におけるフェミニズム—女性たちの間で急速に高まる根底にあるものは何か—
- 横田 亜弓 日韓併合から見る帝国主義日本
- 米村 香穂 グローバリゼーションが進む現代世界における反グローバリズム台頭—東アジアの未来—

大山耕輔研究会

- 青木 俊輔 大都市制度の比較研究—大阪市と他都市との比較—
- 伊藤 遼 自治体業務および行政サービスのデジタル化要因の分析—11市町村へのアンケート結果から—
- 岡本 晋 里親委託における自治体間格差の要因分析
- 小田 翔吾 国家公務員における人事評価制度—人事評価と人材育成—
- 三枝 朋樹 四国新幹線の実現可能性を探る
- 清水 千春 包括連携協定の地域社会貢献力—アンケートとヒアリングから—
- 廣瀬 紗知 なぜ非認知能力向上のための就学前教育への支援が進まないのか—諸外国との比較研究、国内での事例研究を通して—
- 振津 直弥 官邸主導でのオンライン診療規制緩和—日本医師会・厚労省・内閣の関係性に着目して—
- 丸崎 千尋 地方圏の生産緑地指定に係る政策決定過程に関する考察—議事録と農地課税額による分析—

小川原正道研究会

- 高橋 勇人 近衛篤磨のアジア主義思想

| | |
|-------|----------------------------|
| 武岡 大雅 | 山本五十六の出世の要因を探る |
| 谷口 浩規 | 明治期のキリスト教社会福祉とその意義 |
| 中村 駿 | 未定 |
| 新山 俊樹 | 未定 |
| 東 修司 | 福沢諭吉の交際論と日常的な実践 |
| 本田理梨子 | 明治初期のロシア語教育と対露外交担当者の動向について |
| 松村 葵 | 明治天皇と政治の関わり—侍補制度を中心に— |

笠井賢紀研究会

| | |
|-------|--|
| 石鍋 啓介 | 対象化された被災経験についての考察—南三陸町生活支援員の活動事例より— |
| 宇佐見祐樹 | 道路空間の使用に関する許容度の規定要因—新百合ヶ丘地区を事例として— |
| 大鹿 来未 | ソーシャルコンテンツによる地域活性化—埼玉県のゆるキャラ分類を通じて— |
| 清野 航世 | 外部人材と地元住民による地域づくりの様相—山梨県小菅村の事例から— |
| 楠 りえ子 | 墓の機能をめぐる検討—沖永良部島の墓正月の事例から— |
| 小平あゆみ | 出生前診断と人工妊娠中絶に関する社会意識の探索—新聞記事の内容分析を通じて— |
| 高橋あり彩 | 地域コミュニティの場における高齢者の「選択縁」とその広がり—東京港区「芝の家」を事例に— |
| 林 奈穂 | マンションコミュニティを活性化させる人材とは—管理する・されるを超えた関係性と地域愛着・理解に着目して— |
| 早野 徳馬 | コロナ禍での地域学校協働活動を得た保護者の意識変容—杉並区立杉並第六小学校を例に— |
| 松島 未来 | 移動する日本人のライフストーリー—複数の文化のなかで生きる人の差異と他者への向き合い方— |
| 松成 拓 | 総合型地域スポーツクラブに通う人々の参加・継続動機—「ひまわりのおたね」参加者の事例を通して— |
| 薬師寺凌雅 | 使われ続ける公共空間—恵比寿東公園を事例として— |

粕谷祐子研究会

| | |
|-------|-----------------------------------|
| 于 愛佳 | 競争的権威主義体制におけるメディア統制と活用 |
| 河田 彩佳 | インドにおいてヒンドゥー至上主義が台頭した要因 |
| 椎名えりか | 東南アジアにおける紛争の継続性について |
| 島田 早紀 | 難民をつくり出す政治権力—駒とされた「ボスニア人」— |
| 鈴木 日和 | ポピュリストと民主主義の後退—エストラダとドゥテルテの比較・分析— |
| 中川 勇哉 | 立会外分売条件の違いによる株価変動 |
| 野口 能伸 | アラブの春における外国の介入—なぜチュニジアのみが民主化を維持 |

できたのか—

- 室井 翔輝 政治体制とサッカー振興政策の関係
矢澤 碧 ポピュリズムは民主主義を後退させるのか—中東欧諸国の比較から—
湯浅 翔平 現代権威主義国家における国家元首の世襲条件—王朝を築きたい独裁者に送る権力継承の策—
吉田 凌太 東南アジアの選挙権威主義国家において野党連合と市民が結託してどのように体制アクターに立ち向かうか？

鳥谷昌幸研究会

- 井伊 彬就 なぜ人々は怪しい情報に心酔するのか—人を盲目にさせる思い込み—
五十嵐礼菜 間メディア社会における「炎上」報道について—週刊誌から大衆へ継承された社会的制裁機能—
大塚 匡倫 「韓流」の国際的展開から見る日本のソフト・パワーの現状と課題
小泉 怜衣 社会記号としてのSDGs
茂田 夕渚 「Lの世界」から見るコミュニティ形成について
鈴木詩音莉 パラスポーツの「持続可能なスポーツイベント」としての在り方—競技を「観る」を通して「体験」させる劇場型観戦—
長澤 めぐ 障害者とメリトクラシー—メリトクラシーの象徴としてのパラリンピック—
野澤莉沙子 「相模原障害者施設殺傷事件」を考える—植松被告の「心の闇」とは—
服部 碧 見た目に「生きづらさ」を抱える人々はどう生きてきたか—「ユニークフェイス」から「見た目問題」へ—
堀田 真生 報道とプライバシーの限界—犯罪被害者の実名報道は必要か—
山口裕太郎 日本の障害者入所施設の課題と未来—やまゆり園事件の反省から—
山崎 絢乃 災害下でのスポーツにおける物語ジャーナリズム

河野武司研究会

- 梶木 玲欧 日本における世代間格差と投票率
橋本 直樹 労働者賃金向上によるデフレ脱却について
浜地 清美 憲法改正国民投票における広告規制について
前川 輝行 発展途上国のインフラの現状と課題
前藤 優太 ニュースアプリユーザー間で政治に対する認識が異なる可能性はあるのか

小嶋華津子研究会

- 石丸 義久 映画 YASUKUNI への助成金による、日本政治過程分析
上田 裕介 権威主義体制とデジタル化の関係性に関する考察—中国と韓国の事例を対象に—
王 怡然 現代中国教育改革下の小学校社会科
尾崎 哲郎 スリランカ問題から見る中印関係の再検討

| | |
|-------|--|
| 小山憲太郎 | 中国国内における日本のアニメ作品に対する規制の背景分析 |
| 坂本 公志 | 中国の公式見解から見るグローバリズムと地域主義 |
| 司代 隼 | 中国人技能研修生の労働環境の変化と破綻の要因 |
| 田口 龍 | 国交断絶前後の日台間における関係維持について |
| 坪田 結衣 | 中国 EC 市場と政策の関係性—アリババへの規制に着目して— |
| 寺崎由希子 | 習近平政権の「共同富裕」の行方 |
| 中川 大資 | 習近平政権における儒教的言説の利用 |
| 永富新之丞 | 中華人民共和国と朝鮮民主主義人民共和国の二国間関係—丹東市・新義州市を焦点に— |
| 中間 万葉 | 日中のエネルギー政策転換について |
| 中村 紘也 | 香港デモのキーマンから見る Twitter 上の対外向け言説—言語的特徴と影響力の分析— |
| 野村 裕基 | 日中文化交流と対中外交 |
| 初谷 智輝 | 2008年北京オリンピックにおける競技会場運営の持続可能性について |
| 正木 健太 | 尖閣諸島漁船衝突事件を巡る日本の保守論壇における対中言説 |
| 村田 夏美 | 深圳の経済発展をもたらした要因及びその発展構造の変化 |
| 渡辺 純美 | 2019年選挙からみるポスト・スハルト時代のインドネシア華人の政治参加 |

澤井敦研究会

| | |
|-------|--|
| 石原 有基 | 人々の意識の中の東京五輪 |
| 大江 柚貴 | アプリゲームコンテンツ消費の現在と今後 |
| 大野 真依 | 手段としての暴力—生きづらさの発露としてのテロや通り魔— |
| 大山沙矢佳 | SNSが誘起する孤独感—美点に潜む「現代社会の影」に迫る— |
| 甲斐友太郎 | 『おおかみこどもの雨と雪』にみる親と自己 |
| 兼子 佳恵 | 現代社会におけるミニマリストの価値と今後のあり方 |
| 品野 未羽 | 村上春樹作品における女性登場人物—データコメントからコミットメントへの移行を踏まえて— |
| 白水 稔 | 日本人と「空き家問題」 |
| 中村実咲穂 | マスコットキャラクターの社会的役割—ハローキティからの考察— |
| 深沢 慶太 | 現代日本における「小説を読むことの構造」と小説の形式について—多様な読書の擁護のために— |
| 堀越 将吾 | ネットカルチャーの変遷から紐解く「われわれ」 |
| 道下 杏香 | 意志表示を身にまとう世代—ファッションにみる“投票消費”— |
| 宮澤 瞭 | 情報消費社会における学習塾の実態とその弊害 |
| 宮田 育旺 | ファッションスタイルの類似化現象の社会的、心理的考察 |
| 宮田 岳 | 機械化の進む消費における対人コミュニケーションの価値—人工知能はつながりをうみだすか— |
| 森川 優真 | ブランド議論から見る消費社会の現在と今後—「こだわりの強さ」によるブランド意識の変化— |

- 安田 遙平 気楽に得られる承認とつながりの模索—日本の若者が SNS 時代を生き抜くために—
- 吉田 春陽 若者のアイデンティティ形成におけるコミュニティ依存とコンテンツ依存の両立—メイド喫茶の事例から考える—

塩原良和研究会

- 石川 愛海 居場所における『あそび』の存在について (エスノグラフィ)
- 小林 夏穂 大学生スタッフとのコミュニケーションによる生徒の学習充実 (エスノグラフィ)
- 小林 優 子どもたちが「居場所」と感じる理由 (エスノグラフィ)
- 齊藤はるか 「鶴見よる教室」における、さまざまなルーツを持つ生徒同士の交流方法について—わたしたちゼミ生が、この空間で出来ることはなにか? (エスノグラフィ)—
- 佐藤美紗希、藤岡陽大、渡辺春乃 留学生と居場所—国際寮が担うコミュニティ形成の在り方—
- 澁谷 駿介 サポーターと子どもたちの関係と居場所 (エスノグラフィ)
- 白石 千晶 多文化共生と地方創生の相互関係性
- 反町 友哉 外国ルーツ高校生の学習モチベーションになるものは何か (エスノグラフィ)
- 平岡 凌 コミュニケーションとしての「押し」語り (エスノグラフィ)
- 広瀬 奈美 映画「落穂拾い」—質的インタビュー調査からの落穂拾いの分析—
- 三宅 里佳 足りない風景
- 文 受彬 在日中国人若者の被差別経験
- 森 風花 よる教室における新たに出会った人々の共生について (エスノグラフィ)
- 若田部佳佑 夜教室 (ゼミ生・自分自身) に期待されている役割とは (エスノグラフィ)

杉木明子研究会

- 飯塚 美里 カメルーン東南部における先住民の生活と動物保全の両立
- 大場 美波 チャド湖における水資源問題解決に向けて
- 川相英里奈 日本に定住する難民の社会統合に向けて
- 木村 茜 第三国定住の効果的な実施に向けて
- 栗田 愛弓 ナイジェリア社会と Nollywood の発展
- 小林 涼 「慈悲深い」独裁者による権威主義体制下の経済開発について
- 齋藤 正人 アフリカでの人口増加と雇用機会の創出問題における OnlineMarketplace の有効性とその問題点
- 杉浦 慧 新しい紛争について—ケニアの「選挙後暴力」を軸に—
- 瀬戸 結佳 「人間の安全保障」の実現に向けたノンフォーマル教育の役割—ケニア・マサイ社会を事例に—
- 田中慎之介 ソマリランドの独立と国際社会

- 西 理奈 内戦経験国に対する国際社会のアプローチ—南スーダン内戦から考える—
- 前原 葉太 なぜケニア土地自由軍（KLFA）は反英独立闘争への貢献が認められなかったのか
- 松尾 慧 アフリカの農業者組織に対する考察
- 渡邊 隼也 アフリカ政治とデジタル技術—権威主義体制が増幅し得るデジタル化のリスク—

竹ノ下弘久研究会

- 須田美菜実 若者のボランティア活動の動機に関する研究
- 長野 誠也 平等政策実現の要因—社会運動を通じた分析
- 林田 玲 「2020年教育改革」に係る中央教育審議会議論の特徴
- 山本 凌輔 都市と地方における主観的幸福度の違い

田上雅徳研究会

- 安宅 真哉 エクスタシー的現象の類型と、忘我的社会に充満する死のエクスタシー
- 鈴木 夢叶 シェイクスピア作品から見る「女王」のあり方
- 永代 佳穂 宮崎駿/スタジオジブリの東洋的な汎神論
- 原 歩実 公的であること、私的であること—アメリカにおける中米移民から考えるペンテコステ派—
- 村瀬 巧 映画『スター・ウォーズ』シリーズにおけるヒロインの身体と精神
- 山崎 昌平 【ユーゴスラビア民族が共生から殺し合いに至るまで】—カール・シュミットの有的理論を補助線として—
- 横田 真司 政治的神話の喧伝者ゲッベルス—ナチスによる民衆の責任操作—
- 米倉 志織 ヘンリー8世による宗教改革に関する—考察—国王の離婚問題を中心に—

玉井清研究会

- 大杉 勇喜 片岡直温の政治家像—選挙遍歴、実業界との関係を中心に—
- 金森 拓仁 自由民権運動期のフランス観—明治14年の『東洋自由新聞』に注目して—
- 瀧田 朱里 戦後の女性の政治参画をめぐる葛藤—「女性改造」を通じて—
- 仲田 圭佑 濱田國松の選挙地盤確立過程における—考察
- 眞船 智哉 三木清とカール・シュミットによる二種類の否定の意味について

築山宏樹研究会

- 安部麻由佳 女性首長と女性の政治参加との関連—市区町村データによる実証研究—
- 新井 美代 サイバーいじめの学校適応感への影響と要因分析—TIMSS2019年に基づく実証研究—

- 稲田裕次郎 MyAnimeList を用いたアニメの国際展開促進に関する分析—国際見本市とライセンサーの観点からの考察—
- 宇野はる佳 ソーシャルキャピタルと地方創生の関係—都道府県のパネル調査に基づく実証研究—
- 笹本 賢佑 企業の社内制度の導入による労働生産性への効果—日本企業のデータによる実証研究—
- 佐藤 礼哉 地域産業政策の地域経済への影響—企業立地促進法に基づく基本計画の効果について—
- 高橋 駿 都道府県地球温暖化対策計画が温室効果ガス排出量に与える影響—市町村の取り組み事例から—
- 松尾 優里 教員の ICT 活用力向上が学力格差にもたらす効果—OECD 加盟国の国際比較データの実証分析—
- 村上 陽太 東日本大震災における産業復興政策の効果—水産業の事例から—

堤林剣研究会

- 荒川 拓輝 SNS 有権者の投票行動に与える影響—政治家の SNS 利用について—
- 石部 丈二 「若者の政治離れ」とその実態について—「若者の政治離れ」を若者視点で考える—
- 稲垣 里紗 ポストフェミニズムの欠陥とメディアの今後
- 大畑 直輝 バブーフの「陰謀」に関する考察—「陰謀」はなぜ「革命」と成り得なかったのか—
- 陰山 泰河 欧州連合軍創設可否に関する議論の変
- 北島 陽子 フランコ・ユダイズムにおける「普遍主義」と「特殊主義」の融合—革命100周年におけるザドック・カーンの言説を中心に—
- 吉川 舞 日本における幸福度上昇—ジェンダー格差の是正について—
- 児嶋 優佳 二十億光年の孤独と中間的存在である人間—谷川俊太郎をパスカルの人間観・宗教観から読み解く—
- 笹島 里紗 動物の権利に関する考察 ピーター・シンガーの動物解放論を軸として
- 水津 瑛斗 e スポーツの現状分析と未来予想
- 勝呂 亘 10年後のオフィスビルの在り方とは
- 鈴木 翔太 テレビの現在地と未来予想図—マスメディアの役割と功績の考察—
- 関根 雅将 ハンドボールはなぜ日本で流行らないのか
- 高須賀亮人 新型コロナウイルス陰謀論の現状と対策—フェイクニュースに騙されないために—
- 立島 葉大 ディズニープリンセスと社会情勢の関係
- 谷 峰成 「主夫」という夫婦関係を考える
- 日高翔一朗 二元的グローバル正義構想の可能性と課題—デイヴィッド・ミラーのグローバルな分配的正義構想—
- 丸山かんな バレエはなぜオリンピック競技にならないのか

- 源川まり子 フェミニストたちのルソー解釈—『エミール』をめぐる論点と批判的視座—
- 依田 浩司 ギールケにおける〈ドイツ自然法論〉と「正義」—『アルトジウス論』「自然法とドイツ法」を巡る一考察—
- 渡辺 結衣 国民の支持と国の発展について

錦田愛子研究会

- 浅野 美桜 移民第一世代の、母国語の影響を受けた発音による、職場における差別について
- 河西 環 欧州のサッカーナショナルチームに見る、移民出身選手の特殊性
- 笠原 万緒 ジェンダー暴力からの女性難民の保護について
- 兼子 烈 日本における外国人労働者に対する—日本語教育支援の現状と課題—
- 川上 紗英 不就学と母語教育の関係性—諸外国から学ぶ日本の母語教育の改善点とは—
- 小西 舞優 日本社会が難民との共生のために必要なこと
- 佐々木鴻史郎 日本人の在留外国人に対する差別の心理的要因—日本人のアイデンティティと絡めて—
- 添田 大生 日本人の差別意識と義務教育の因果関係
- 谷 眞琴音 湾岸アラブ諸国の移民政策の全体像を紐解き、今後を考える
- 渡慶次邑稜彩 在日外国人が日本にて疎外感や孤独感を感じることなく暮らすためには
- 中村 優太 横浜華僑から見る移民共生
- 野田 駆 北部三角地帯からの移民にとって移住先・メキシコの移民をめぐる制度はどう変化していくべきか？
- 野村 優衣 難民問題解決のために今後日本が果たすべき役割—ロヒンギャ難民問題の対応におけるジレンマ—
- 福本 隆 境目としての日本国籍
- 森 厚太 「共和国」フランスの移民統合モデルと極右によるその政治利用
- 山中 陽菜 日本の移民コミュニティの形成と外食産業

西野純也研究会

- 浅利 美月 キリスト教によって動かされる韓国現代政治—民主化以降のクリスチャン大統領とキリスト教系団体が有する影響力とは—
- 石井 豪 在沖繩米軍海兵隊と台湾有事—日本政府の硬直的態度の妥当性—
- 石黒 遼太 福田ドクトリンの「2つの外交方針」と評価
- 岩田 圭司 Huawei 制裁の戦略的意義—軍事・諜報における米中覇権戦争から紐解く—
- 河井龍太郎 Netflix 時代の日本映画産業の制度・構造分析—パラマウント同意判決の現代性—
- 川野 彩子 日本の経済安全保障政策と民間活動の両立における課題
- 城倉 一輝 中国が「一帯一路」構想を導入した経済的理由

- 庄司 莉帆 近年になって日米が人的技術流出への対応に急ぐのはなぜか—「千人計画」と習近平政権下の2つの戦略—
- 種村 竜馬 外国人による土地買収への日本政府の対応と課題—なぜ日本では外国人の土地取引を規制できずにいたのか—
- 趙 藝媛 米韓同盟の変革に対する中国の脅威認識の変化
- 濱崎 理央 韓国国内政治における日韓歴史問題の利用—実態と動機、効果について検証する—
- 丸山 駿 アジアの構造変化と ASEAN の中心性の動揺—地域構造に規定される ASEAN 外交の限界性—

萩原能久研究会

- 秋葉 満喜 歴史記憶の風化—カタルーニャ独立問題を事例に—
- 伊豆川晃平 —「イメージ政治」現代ポピュリズムとメディア—
- 伊藤 栞 ウォルト・ディズニーによるプリンセス三部作のボーヴォワールのな考察
- 江坂健太 生物学的必然性と政治—アセンブリとニューラリンクの間で—
- 大田 晃 マイノリティーの権利保障を多角的目線から紐解く
- 大塚日奈子 「正義」が現代の政治に与える影響
- 金森 一輔 正戦論の批判的考察—映画から意義を探る—
- 金田絵理奈 現代における芸術の存在意義—サルトルの問い「飢えた子供を前に文学は役に立つか」から考える—
- 菊地 萌々 わたしたちは正義をどのようにして認識するか
- 北尾 拓登 幸福とは何か—21世紀における「幸福論」—
- 倉科 美月 核問題にみる日本の安全保障の現状とこれからのありかた—核廃絶に向けた日本の世論と政治の乖離—
- 小菅 優介 「脱成長論」の妥当性の検討
- 高木 里香 同化政策 過去の不正に対する責任と賠償
- 手塚 凜 韓国の格差社会—映画『パラサイト』から見えてくるもの—
- 永田恵利沙 欧米における日本の自然観の受容
- 新美 貫太 不都合な価値観と自己決定の価値
- 服部絵里香 フェミニズムの高まりによる『家族』の変化
- 初見萌々子 「男らしさ」から見る男女平等社会のあり方について
- 平岡 孝介 日本に「ジェネレーション・レフト」は広がるのか
- 藤井 夏実 日本のフェミニズム
- 諸江 優 人を育て、成果を出す組織構築の考察

細谷雄一研究会

- 青山 由女 ミットラン政権初期の対中南米外交—第三世界主義構想とその挫折—
- 石川 清香 アメリカの宗教ロビー—宗教はいかにして政治に結びつくのか—
- 鐙 京香 アイルランド自由国はなぜ成立したのか—6つの運動とアーサー・グリフィスとイギリスの植民地政策に着目して

- 大林憲司マテイ 州防衛共同体構想を巡る米国外交 1950-1954—西ドイツ再軍備の狭間で—
- 小松 紗夏 『グレート・ギャツビー』におけるセルフメイドマン—F・スコット・フィッツジェラルドのベンジャミン・フランクリン回帰—
- 齋藤日菜子 香港政治化現象における「イギリス要因」—「三つの大山」から探る香港的「民主」の土壌—
- 篠崎 瑠架 外交官としての重光葵—駐英大使時代を中心に—
- 武田はる希 池田政権の対外政策と高度経済成長—鈍化から急成長へのプロセス—
- 田山 礼真 「信頼」を醸成するドイツ対外文化政策—第三次メルケル政権下の対ロシア政策を事例に—
- 富樫 莉花 外政と内政を繋ぐ政治家：後藤新平—親露政策を通じて—
- 西本 健 スペイン内戦と英仏の不干渉政策成立過程—1936年夏の英仏関係に注目して—
- 濱野 航 キッシンジャーの外交思想が米国の対外政策に与えた影響
- 不破 愛実 ウッドロー・ウィルソンの外交思想—The world must be made safe for democracy—
- 三田将太郎 日本外交における日英同盟—国際社会における地位向上という戦略の視点から—
- 南 泰葉 BBC とブレア政権の確執—イラク報道からジャーナリズムを検証する—

宮岡勲研究会

- 秋山 恭子 仏独関係の欧州平和への影響—ドイツ問題（1945-55年）を中心として—
- 岩見 航輝 石油と国際紛争—イラン・イラク戦争と湾岸戦争を事例として—

山本信人研究会

- 中島 大貴 「規制」から「規制」へ—民間 IT 企業から見た中国の特殊性—
- 山口 ゆい 調和の取れた平和な国家シンガポールの実態—Forge の真意とは—